

○議長（吉田敏郎）

1番、下山千津子議員、どうぞ。

○1番（下山千津子）

皆様、こんにちは。1番、下山千津子でございます。通告に従いまして、「人にやさしいまちづくり」の推進を、の質問をさせていただきます。

2019年にスタートした第五次開成町総合計画後期基本計画により、将来都市像の実現に向けたさまざまな取り組みが進められます。

この計画の基本姿勢は、人口の増加傾向と年少人口の割合が高いという状況を捉え、子どもたちが大人になっても住み続けたいと思えるまちづくりを進めていくことと認識しております。

また、町長は先の選挙において、住みたい、住み続けたい、訪れたいをスローガンとされました。

しかし、まちづくりの現状を見てみると、開成駅に急行電車がとまり、新庁舎建設が順調に進められている変化こそありますが、もう少し町民の皆様の目線に立ち、一工夫あればより施策が生きて、人にやさしいまちづくりが展開されるのではと感じております。

そこで公約に掲げられたように、この町に住みたい、暮らしたいと思えるまちづくりの考え方や方向性について、次の事項について伺います。

①町の玄関口である開成駅前の噴水及び花壇の現状と課題は。

②人にやさしい巡回バス運行のために、バス停にベンチ設置の考えは。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、下山議員の御質問にお答えいたします。議員の御質問にある、「この町に住みたい、暮らしたいと思えるまちづくりの考え方や方向性について」、第一には、第五次開成町総合計画に掲げた将来都市像「明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成」に向けて、社会の変化を的確に捉え、町民の満足度を高め信頼や絆を大切に、住んで良かったと実感できるような政策の充実や推進に努めることが重要であると考えております。

また、住んでみたい、住み続けたい、訪れたいこのような開成町にするためには高齢者も若者も、障がいのある人もない人も、大人も子どもも全ての人が安心安全に暮らせて、町民一人一人が主体となり、お互いに支え合えるまち、そんな「人にやさしいまち」を築きあげていきたいと思っております。

人にやさしいまちづくりは、子育て・教育・健康といったソフト施策と、道路などの公共施設の整備であるハード施策、両面にわたる努力によって成し遂げられます。町としては、町民の声に十分耳を傾け、人にやさしい施策となるよう努めてまいります。

では一つ目の、町の玄関口である開成駅前噴水及び花壇の現状と課題についてお答えをいたします。

噴水及び花壇がある開成駅西口駅前広場については、町施行で開成駅周辺地区土地区画整理事業により、平成6年度に整備したものであります。

整備にあたっては、地元関係者、専門家、関係機関などによる「開成駅前街づくり委員会」を組織をし、開成駅前周辺地域について、本町の21世紀に向けての「顔」として位置付け、広域的に新しい拠点としての機能のほか、新市街地にふさわしい街角景観のモデル地区として議論を深め、駅を核とした都市構造を設定し、区域内における土地利用の方向性や公共施設の整備方針を取りまとめました。

西口駅前広場の整備方針については、交通結節としてのロータリー形状のほか、町の玄関として魅力ある快適な空間の創造として、噴水等が導入をされました。

この整備方針に基づき西口駅前広場の整備を行い、現在町の玄関口として自然と融合した快適な都市空間となっております。

噴水については1日2回、朝7時から8時及び、夕方17時から18時に地下水をくみあげて稼働しております。また、月1回または2回の清掃を実施をして、良好な状態を保っております。

なお、維持管理費を考慮し、効果的な時間帯に絞って噴水を稼働している状況があります。

そして駅乗降口の脇にあります花壇については、西口駅前広場の整備後に吉田島高校へ管理をお願いしたところ、引き受けていただき、現在に至っております。

吉田島高校には、年2回花の植え替えをいただき、駅利用者の心を和ませていただいております。大変感謝しているところであります。

この花壇のほかに、西口駅前広場には良好な都市環境の充実に資するため、噴水の周りや歩道部分などに多くの植栽帯を設けております。この植栽帯については、年3回の除草のほか、適宜高木等の剪定を実施をし、適切な維持管理に努めております。

西口駅前広場については、3月からの急行停車の影響と考えられる待機タクシー車両や送迎用車両の増加により、交通の錯綜が見られるため、ロータリー内の外側線やバス・タクシーの区画の消えかかった表示を再整備しましたが、噴水や花壇等の施設については、特に課題があるとは認識しておりません。吉田島高校には引き続き協力をいただきながら、現状の施設について適切な維持管理を進めてまいります。

ただ、今後の駅利用者の状況変化により、課題が発生する可能性があると考えており、再整備の検討をはじめたところであります。今年度は、再整備に向けた基礎調査として現状の調査及び課題の整理を行います。

この中では、通行の安全、交通警察結末の機能のほか、駅周辺のまちづくりという点で噴水や花壇を含めた緑地帯のことも検討してまいります。水を生かした施設ということでは、西口駅前広場につながる駅前通り線に水路があり、噴水も含めてど

ここまで必要か、考えていきたいと思っております。

次に、二つ目の人にやさしい巡回バスの運行のために、バス停にベンチ設置の考えについてお答えをいたします。

高齢者の方の日常生活の利便性の向上を図るため、福祉目的として町内巡回バスを運行しております。

平成29年度から本格運行を開始し、現在は南北線、巡回線の2系統2台体制で実施をしております。

年間利用者数については、試行運転にあった平成27年度では2千516人でありましたが、平成30年度には1万586人と4倍以上に増加をし、毎年着実に伸びてきております。

また、巡回バスの利用者の方は6割以上が60歳以上の高齢者の方であり、このことから、巡回バスは高齢者の皆さんの移動手段として、確実に浸透しているものと考えております。

御質問の、バス利用者がバス停付近で利用できるベンチ等については、現在役場北側駐車場、開成駅西口、南部コミュニティセンターなど公共施設に設置のベンチが4カ所、岡野ふれあい公園、鳥見行公園などの公園に設置のベンチが4カ所、金井島公民館、上延沢自治会館などの自治会施設の敷地内に設置されたベンチが5カ所あります。

巡回バスの全バス停24カ所のうち、半数を超える13カ所のバス停周辺に利用できるベンチ等が設置がされている状況であります。

それ以外の場所は、バス停周辺の道路幅員が狭いことやバス停が施設の出入り口付近にあることなど、ベンチの設置の場所の確保が難しいことからバス停付近にベンチを設置することは難しいと考えております。

以上であります。よろしく願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

ただいま町長から一定の答弁をいただきました。個別質問の前の前文の部分で、言葉尻を捉えるようで恐縮でございますが、施策の充実や推進に努めることが大事であると考えているとか、築きあげていきたいと思っている、と言われました。なんとなく他人ごとのように聞こえました。確かに言葉で言うのは簡単です。要は実行できているかが重要と考えております。

町のトップとしての強い意志で、町民のために必ずやるんだという信念で適切に指示出しができているかを見てみますと、甚だ疑問に感じていることがございます。

通告文でも言っているとおり、今年の3月16日から開成駅に急行電車はとまることになりました。多くの町民の皆様からも、とっても便利になったという声が聞かれております。

開成駅ができて34年がたちますが、町にとっての長年の夢がかなえられたわけ

でございます。

昨日、いみじくも町長は、自分が急行をとめたわけではなく、50年前からの先人の人たちのおかげで停車するようになったと。先人の方々と町の職員の汗の結晶の賜物で実現できたと私も認識しております。もちろん2期8年、府川町長が継続経営をされたおかげでもございます。

私は急行電車がとまるようになった3月から新松田駅より開成駅を利用するようにはしております。また、朝夕の数時間駅前に立ち、現場の様子を見たり、乗降者の生の声を聞き取りをいたしました。駅周辺の安全面や環境面などを見てみますと、見逃すことのできない幾つかの課題や問題点があることに気づきました。

駅から真っ直ぐ西方向に伸びる駅前通り線の整備など、大きなハード整備という今後に向けた課題もございますが、住んでみたい、訪れたいと思えるように感じられるためにはちょっとした工夫やおもてなしの心遣いで利用者が満足に感じていただけることが幾つかあるのではないかと感じております。駅前通り線の完成まで待つのではなく、すぐにでもできることはやるべきだと痛感しました。今こそ町民目線や駅利用者目線に立ち、一工夫することで、開成町の玄関口としてさらに町の顔にふさわしい駅前の姿になるのではないかと、また一人でも多くの人に開成町のすばらしさを感じてもらえるのではないかと思います、今回の質問をさせていただくことにいたしました。

それでは、順次個別の質問に移らせていただきます。町の玄関口である開成駅前の噴水及び花壇の現状と課題についてでございますが、答弁で平成6年度に開成駅前周辺地域について本町の21世紀に向けての顔と位置付け、広域的に新しい拠点としての機能のほか、新市街地にふさわしいモデル地区としたと。町の玄関として魅力ある快適な空間の創造として噴水などが導入されたと。

私は平成25年9月にも、同類の質問をさせていただいております。その時も今と同じ状態だったからです。そのときの答弁は、噴水が出ていないのは、電気代がかかるので噴水はとめていると言われました。

平成6年のまちづくりの思いはどこに消えてしまったのでしょうかと、大変残念に思い続けておりましたから、このたびの答弁では、駅前は町の玄関ですよ。噴水も1日2回稼働して、良好な状態を保っていると言われました。

そこでお聞きいたします。電気代はどのくらいかかり、いつから噴水を出すようにされたのか、お伺いいたします。

○議長（吉田敏郎）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えします。まず、噴水に係る電気代ということで、これは地下水をくみあげるポンプの電気料でございますけれども、電気料としては、年間数万円程度と思っています。

というのは、他の時計塔であったりとか、照明とか、そういった部分の一括の電

気代請求ということでございますので、使用料等を考えた中でいうと、年間数万円程度というふうに思っています。

そして、噴水の稼働させている時期ということでは、議員が平成25年当時に、御質問があった事項については稼働させていると認識してございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

御答弁の中で、水道代は年間数万円であると。電気代は数万円であると。噴水はいつからかはっきりとはなく、平成25年9月、私の質問をした後には出していると、そういう御答弁をいただきましたが、私が調べた結果では、今年の3月以降、時々駅を利用してございます。近隣のお友だちや駅の利用者も噴水が出ているのは見たことがないと皆様が言われておりました。朝夕の大手企業のバスの運転手さんにも数人の方にお聞きいたしました。水の音もしなかったし、気がつかなかったよと言われました。

駅前の乗降口の脇にある花壇については、吉田島高校の生徒に管理をお願いしているということで、四季折々の花がいつも咲いていて、駅利用者の方からも大変評判が良いです。しかし噴水の周りの植栽帯やロータリーに面した植栽帯は剪定もされず雑草が伸び放題になっていて、とても見苦しく感じております。適切に維持管理ができているとは言えませんでした。シルバーさんなどに委託して、年3回ほど除草や高木の剪定をしているということでございますが、その頻度では美観を保つことはできないように感じております。常にきれいな駅前にしておくことが重要と考えます。

先ほど町長は町民一人一人が主体となって、お互いに支え合える町が人にやさしい町であり、そのような町を築きあげていきたいと言われました。

駅前の美観を維持していくために、例えばボランティア活動の一環として地域住民の協力を求めたり、植栽などの維持管理をしているを考えはありますか、お聞きいたします。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

急行がとまったということもありますけれども、普段から開成駅というのは、開成町の玄関口、顔でありますので、普段からきれいにしていくというのはすごく大事なことだと思います。今、ボランティアの話が出ましたけれども、普段から毎日開成駅の清掃活動をしている方、毎週やっている方、さまざまな方が、見えないところでそのような形でやっていただいている、本当に無償のボランティアという方々がたくさんいられて、そういう中であっても、まだやはり足りない部分はもちろん植栽も含めてありますけれども、そういう部分において、やはりできるだけそ

ういう方々が、うちの町の玄関口だという思いの中で、地域の方々、また地域でない外から来ている方にも開成駅の清掃活動をやっていただいている方がたくさんいられますので、そういう思いの中で、私もできるだけ一緒に参加できるような形ではしておりますけれども、なかなかボランティアというのは強制できるものではないので、できるだけそういう思いを具体的に活動にやろうという時に、支援策を考えながら促しをしていくという方向で考えていきたいと思っています。

○議長（吉田敏郎）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

議員の御指摘の中で、噴水が十分に稼働されていないのではないかとということであったり、植栽帯の管理が不十分であるということ、ちょっと御説明させていただきたいと思います。

まず1点目の噴水の稼働につきましてでございますけれども、清掃ということで月1回ないし2回ということで、シルバー人材センターに委託をして実施しているところでございます。この中で、噴水の出る量のバルブというのですかね。調節する弁がございまして、それを調節しながら清掃を実施しているというところでございます。その清掃後については、元の状態に戻せばということでは、指示をしていたところでございますけれども、そのところが十分ではなかったのかなと、弱めの噴水量という形の中で、きちっと機能が見えていなかったとは思っています。こちらについては、我々等でも改めて現場の確認をしたり、指示を出したりという形の中で、今後はきちんとした形の中で噴水が出るような形の中で維持管理に努めてまいりたいと思います。また、植栽帯については、年3回の計画ではやっておりますけれども、議員御指摘のとおり、町の顔ということは十分認識してございます。その中で日々パトロールであったり、見かけた時に十分ではないという時には、臨時的な対応等についてもこれまでもしてきました。そういった部分では、どこまでということとはなかなか言えませんけれども、やはり町のイメージアップにつながるような形の中で、適切に今後も維持管理に努めていきたいというように思います。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

ただいまの答弁で、川の町として駅前はきれいにしていきたいと言われましたので安心しました。よろしくお願ひしたいと思います。

そして今現在でも、駅周辺は町内企業の善意によって美化活動が展開されておりますが、それらの企業や団体との協働として、駅前の環境美化を図るための組織などをつくったり、美化活動を推進していくことを提案いたしますが、この提案はいかがでしょう。

○議長（吉田敏郎）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えします。やはり開成駅前を良好な状態に保つということでは、いろいろな方の御協力をいただけるならば、そういった会を組織していくということについては考えたいと思います。

ただ、今現状について、そういったものの教え等がございませんので、まずはそういうような関係者のお声がありましたら、ぜひそういったものについては、前向きに考えていきたいというように思います。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

ぜひ、よろしくお願ひしたいと存じます。

それでは、町長に御質問いたしますが、町長は毎月下旬に奥様と二人で駅前に立ちあいさつ運動をされておりますが、当然これらの様子などは見られて承知されていると思いますけれども、このような駅前の姿を御覧になりましてどのように感じられておりますか。御感想を聞かせていただきたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

毎月駅に立っているのは、やはり挨拶運動、挨拶が飛び交う町を目指しておりますので、できることは自分でやりたいなということで毎月やっています。朝の清掃活動も毎週土曜日、一緒にやってくれる方がたくさんいられますので、そこに入れてもらって、自らもやっているつもりでおります。

そういった中で、先ほど噴水の話が出ましたけれど、なかなか夏によく上に飛び交うような噴水ではなくて、水がちょっと流れている程度の噴水なので、多分その辺が噴水が出ている出ているという、人の見方によって、何も出ていないと見られるのかもしれませんが、今先ほどお話ししたように、バルブの調整が足りなかった部分だと私は思います。

駅周辺の草、特に今の時期は、大変、実は草があります。特にあじさいまつりとか、そういう期間のときには、やはり事前に草刈り等はしますけれども、なかなか年間を通して、草を全部いつもきれいにしておくにはなかなか難しい部分があって、清掃活動においては、ボランティアの方がやっただいておりますけれども、草刈り等々は、事業団に委託をしながら、できるだけ年間きれいな状況を保っていきたいとは思っております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

開成町では、三大事業のイベントの一つで、あじさいまつりというのがございますが、いつもお祭りが終わった後、7月の第1土曜日にボランティアをたくさん集いまして、一斉に花がら摘みをしてございます。ところが、駅前の、今回私もいろいろと駅周辺を散策させていただいたのですけれども、あじさいのお花は枯れたままぶら下がっていて、剪定、枯れ花摘みはされておりませんでした。ですので、そういう開成町の顔として駅前が存在しておりますので、そういったところにも、きめ細かな視点での、トップとしての指示出しをしていただけたらありがたいと思います。ぜひよろしくお願ひしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えします。開成駅前の噴水の前にあるあじさいということでございますけれども、こちらにつきましては、専門業者による委託を発注いたしまして、あじさいの花摘みの、摘きというのですか。適した時期ということでは、7月から9月の上旬という形の中で専門業者さん、そういった時期が適切だろうというふうには認識しているところでございます。この中で、例年8月中にという形の中で作業を進めておりますが、やはり咲き終わった後の、枯れた状態のものが残ってしまっているという期間があるというところでは、速やかにそういったものも花摘みができるような形の中で、今後は発注時期等も検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

ただいま善処して、対応するという御答弁でございました。あじさいまつりは6月に開催されております。現在、9月ですので、3カ月間、お花がそのままの状態というのは、あまり良い光景ではないと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

今年の広報かいせい1月号で、小田急電鉄株式会社の星野会長との対談内容が掲載されましたが、その中で社長が「町の個性を生かし、職、住、商、学・遊のシーンをつくり出すことで、開成町はオンとオフを充実できる町になる」というお言葉をいただいておりますが、これらの現状をどのように捉えられ、今後それらをどのようにつくりあげられるか、町長のお考えを伺います。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

小田急社長との対談のときに、いろいろ社長からも、開成町の魅力、良さというものをお話しいただいて、開成町のことをよく御存じだなと思いました。知らない

ときに、やはり開成町を訪れて、特に瀬戸屋敷、また、瀬戸酒造店のほうにも来ていただいたようで、新しくできた酒蔵の再生に対して大きな期待を小田急の社長としてもしていただけるようで、小田急としても、その酒蔵を生かしたツアーも含めて、観光に開成町のほうとしてタイアップしながらやっていきたいというお話を、社長からいただきました。我々としても北部地域活性も含めて、先ほどありましたけれども、周辺整備をしているわけですので、瀬戸酒造店と、これは民間ではありますけれども、民間と官との協力を持ちながら進めていくことが開成町にとってプラスになるのかなど。それ小田急さんとの連携も含めながらやっていきたいと思っております。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

今、小田急と連携して取り組んでまいるといような御答弁をいただきましたが、具体的には、もしお示しできるのであれば、お聞きしたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

下山議員、今の小田急に関しての質問なのですが、駅前の噴水及び花壇の現状と課題等々に関連した質問として、質問をもう一回していただけますか。

下山議員。

○1番（下山千津子）

今回、私が一般質問させていただいたのは、駅前の景観、そういうこともありますが、やはり町のトップとしての姿勢で、町というのはいかようにもそういったことが進むように、私は感じておりますので、それで今年1月号、衝撃的でございましたので、それで町長の今のような質問をさせていただいております。つながりがあると思って、質問をさせていただいております。

○議長（吉田敏郎）

ちょっと質問を変えていただけますか。

○1番（下山千津子）

分かりました。では、私は今回、駅前の景観や環境整備の重要性を具体的な噴水や花壇の管理の現状を捉えて質問をさせていただいております。町が施策や事業を展開する中で、住んで良かった、訪れて良かったと実感できるきめ細かなサービスを意識することがとても大切なことだと考えております。

特にこのきめ細やかさという視点でとても重要と考えます。朝夕の駅前の様子は以前とは大きく異なり、大変多くの方が利用する駅になりつつございます。これらの方にちょっとしたきめ細やかなサービスを提供することで、この町というのはいかにか良いねという親近感や、身近さのイメージが膨らみ、住みたい、住み続けたいと思う人も増えるに違いありません。ぜひともこの機会を逃さずに生かして、未来に向けて輝く開成町をつくっていただきたいと思います、切に要望いたします。

それでは2問目に移らせていただきます。先ほども答弁いただきましたが、人に

やさしい巡回バス運行のためにバス停にベンチの設置のお考えは、の質問をさせていただいてございますが、答弁に試行運転であった平成27年度は、2千516人であったが、さまざまな課題に対応され、平成30年度は利用者が1万586人と、当初の4倍の利用者があり、毎年着実に増えていると大変喜ばしい結果でございます。平成27年度から毎年議会にも巡回バスの利用状況の結果については報告をいただいておりますので、大まかな点は理解しておりますので、これまでさまざまな課題に対して改善策としてどのような事例が挙げられるのか伺います。

○議長（吉田敏郎）

福祉課長。

○福祉課長（渡邊雅彦）

下山議員の御質問にお答えをいたします。巡回バスの運行にあたっての改善策ということでの御質問でございます。主な改善点の1点目といたしましては、まずバス停の変更ということでございます。自治会や利用者の方の御意見をお伺いした中で、バス停を当初20カ所から、現在は駅、それから役場、それから自治会施設、公園などの拠点を中心に見直しを行いまして、現在、24カ所に変更しております。

2点目の改善点といたしましては、利用者の方の利便性の向上に向けまして、ルートの変更、それから乗り換え場所を増やしております。

例えば、南北線に鳥見行公園、巡回線に瀬戸屋敷を追加することによりまして、発着回数を増やしまして、乗り換えをしやすくというような形をとっております。

それから、3点目でございますが、篤志家の方から高齢者の交通手段の確保ということで、バスを1台御寄附いただいております。このことによりまして平成29年度から2台体制を取ることができました。このことによりまして本格運行を開始いたしまして、巡回線、南北線の2系統、4便体制で実施をしているという、このような状況でございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

平成29年度から2台体制の運行で4便体制で運用がされるようになり、利用者にとって便利なられたことが増加につながったような御答弁でございましたので、よく分かりました。

次に、町長答弁で巡回バスのバス停が24カ所のうち13カ所ベンチが設置されているとでございますが、公共施設、公園、自治会施設における設置状況をお示し願います。よろしく願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

福祉課長。

○福祉課長（渡邊雅彦）

ただいまの下山議員の御質問についてお答えいたします。

公園施設、公共施設ということでございますが、まず、役場北側駐車場のベンチ、それから、開成駅西口では、駅前広場のベンチ、それから開成町福祉会館のロビーのベンチがございます。また、南部コミュニティセンターにつきましては、バス停の近くに敷地内に石でできましたベンチが4カ所ほど、こちらございますので、こういったもの含めまして4カ所、公共施設としてはございます。また、公園につきましては、岡野ふれあい公園、上延沢のふれあい公園、それから、鳥見行公園の各公園内にベンチが設置してありまして、こちらをバスの利用者の方が御利用いただいているかと思えます。それから、宮台の地藏堂につきましては、敷地内にベンチが幾つか置いてありまして、また丸太でつくりましたようなベンチ的なものもございます。ということでこちらが4カ所、それから自治会の敷地の施設内ということでございますが、金井島の公民館、それから上延沢の自治会館、円中の自治会館につきましては、各施設内にベンチがそれぞれを設置してあります。

それから中家村公民館につきましては、バス停の近くが、お隣に緑遊園地がございます。緑遊園地の中にベンチがございますので、このベンチをお使いいただきまして、こちらの活用ということで図られていると思えます。それから下島児童館の跡地でございます。こちらにつきましては、下島自治会のほうで設置いただきました、ベンチが設置しておりますので、合計5カ所、自治会の敷地内については設置されているという状況でございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

町内に13カ所もベンチがあり、親切的な町のイメージが膨らみ、大変ありがたいと思いました。

続きまして、乗降客の多いバス停のベンチの設置状況はどのようですか、お示しくださいませ。

○議長（吉田敏郎）

福祉課長。

○福祉課長（渡邊雅彦）

ただいまの下山議員の御質問にお答えいたします。乗降客の多いバス停ということでの御質問でございます。ランキング的に申しあげますと、第1位は、開成町役場になります。こちらが1日あたり25.5人、第2位が開成駅西口になりまして、24.1人、第3位がぶらっと・かいせい、開成駅東口になりますが、こちらが13.7人、第4位が開成町の福祉会館、こちらについては7.4人、それから第5位が南部コミュニティセンター、こちら6.0人という形になります。

ベンチの設置の状況でございますが、乗降客の多いベスト5のうちぶらっと・かいせい以外の4カ所はバス停の近くにベンチが設置されているという状況でございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

丁寧な御答弁で、理解いたしました。

続きまして、人にやさしい巡回バスでございますが、バス停が24カ所あるうちで、まだベンチがないところが11カ所もあるわけでございますが、ベンチを平等に置くことは、町民にやさしい巡回バスとするための一つの手段でもありと考えております。今後、ますます利用する町民が増えると予想されますので、昨年に続き、今年の暑さも異常気象が続き、毎日のように防災行政無線では水分を取り、熱中症に気をつけましょう、の放送が流れました。ベンチがあれば荷物を置いて水分補給を取る気持ちにもなるかもしれません。今後、平等により多くベンチを設置するために創意工夫をされ、また、自治会の協力なども得て、ベンチを設置すべきと考えますが、町はどのようにお考えでしょうか、お聞きいたします。

○議長（吉田敏郎）

福祉課長。

○福祉課長（渡邊雅彦）

ただいまの下山議員の御質問にお答えいたします。11カ所のベンチ未設置の場所のバス停へのベンチ設置という考えでございます。こちらにつきまして、下山議員御指摘のとおり、全ての場所にベンチを置くということができれば、これは大変理想的だというふうには思います。

しかしながら、先ほどの町長答弁でも申しあげましたとおり、この11カ所の場所につきましては、道路幅員の狭い道路脇にありましたり、また、自治会施設の出入り口、それから各施設の出入り口といった、ベンチを置くことによりまして、通行する自動車、それから、出入りされる方の邪魔になってしまうという、そのような状況がございます。ですのではなかなか、ベンチを置くことに逆に支障が出てしまうというところがありますので、このためベンチの設置は難しいというふうに考えております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

下山議員。

○1番（下山千津子）

ベンチが置ければ理想ですと御答弁をいただきましたが、何とか設置できるようなところには、できるところから考えていただき、対応されて、やさしいまちづくりをしていただければありがたいと思います。

また、利用者が年々増えていることは結構なことで、さらに増やすために、今回提案させていただいた、バス停にベンチを置くということにあわせて、一工夫、二工夫し、バスがとまっている間に、テープで、バスが来ていますよとか、バスがと

まっていますよ、という放送を流したり、あるいは音楽を流したりすれば、今以上に増えるとか考えました。

また、13カ所のバス停にベンチがあることもあわせてお知らせ、周知すれば、利用者も増えることにつながるのではないかと思います。常に利用者目線に立ったサービスの提供に努めていただければと思います、質問をさせていただきました。

これで私の質問を終わります。

○議長（吉田敏郎）

これで下山議員の一般質問を終了といたします。